

令和6年度 第3回宇治市部活動地域移行検討委員会会議録

会議名	令和6年度 第3回宇治市部活動地域移行検討委員会
日時	令和6年12月19日(木) 17時30分～19時30分
場所	宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室
出席者	(委員) 長積委員長 林口副委員長 平田委員 木村委員 矢野委員 中西委員 青木委員 杉本委員 清水委員 須田委員 村上委員 (事務局) 福井教育部長 川崎教育副部長 武田教育支援センター長 安留学校教育課長 福山生涯学習課長 天花寺学校教育副課長 葛山学校教育課総括指導主事兼教育指導係長 宮脇指導主事 吉田学校教育指導主事 脇坂産業観光部長 柏木産業観光副部長 岡部文化スポーツ課長 倉井文化スポーツ副課長 菅居文化スポーツ係長
配布資料	令和6年度第3回宇治市部活動地域移行検討委員会説明資料
1 開会 開会挨拶(事務局) 2 報告及び協議事項 (1) 生涯学習審議会から (2) 学校部活動の地域連携・地域移行に関するアンケートの結果報告 ア 児童生徒、保護者アンケート イ 教職員アンケート ウ 各種団体アンケート (3) 【仮称】宇治市 今後の学校部活動の在り方について(素案) (4) 令和7年度実践研究事業(案) (委員長) 今日の協議事項は4つ。 1つ目は、本件について生涯学習審議会での審議内容について、2つ目は、教員・生徒・保護者アンケートの結果について、3つ目は、その結果を踏まえた部活動の在り方について、4つ目は、その素案に基づいた実証事業について協議を進めていきたい。 (事務局) 生涯学習審議会報告 (委員長) 2つ目に移りたいと思う。データの説明をお願いしたい。 (事務局) アンケート報告 (委員長) 結果のポイントとして、小学生は、中学生になれば部活動は平日のみで、休日は活動したくないが63%となっている。中学生の休日は活動したくないが12%となっている。保護者は、平日だけが良	

いが 56%となっている。

学校の部活動等には専門性を求めているが、地域クラブでは専門性を求める傾向にあったということだと思う。

加えて、小学校・中学校共通で、移動とお金の問題となっている。また、部活動の地域移行について 17%しか知らないという結果だった。やはり啓発をしていく必要があるのかなということも裏返しなのだが、全国的なデータとの比較に関する傾向も一定見られたところと思う。

(委員)

休日の活動で土曜日と日曜日を切った質問はなかったのか。また、学校によってアンケートの回答率に差はあったのか。

(事務局)

学校別のデータは出していません。

(委員)

学校によってある種目とない種目とあり、それによってアンケートの答えに影響があるのではと考え確認した。

(委員長)

確かに学校によってニーズは変わるかもしれない。3 ページのように子どもが志向している種目は面白い結果が出ている。

(委員)

改めて、部活動の加入率は 89%、中学生や小学生の保護者も、90%の方が部活動に参加させたいと思っている。理由として自ら経験されてきたので、加入すべきものという認識の方が多いのだと思う。したがって、保護者の方に部活動の地域移行の理解を求めていくためには、説明会の回数をこなさないといけないのではと思う。

(委員長)

部活動をどうしていくか明確なメッセージとともに、何回も説明し理解をしていただく。このプロセスを段階的に踏んでいくべき。

(委員)

中学 1・2 年生で、部活動が地域クラブ活動になった場合に参加したいと回答した人は 37%、こんなに少ないのかと感じている。精華町では来年度から部活動をしないと聞いた。これから土日祝日には部活動はもうしないという方向なのか。

(委員長)

しないという方向ではなく、学校部活動はなくすという方向で今舵を切られている。ただ、約 60%の子どもが土日に部活をしたくないという中、土日は試合だけという形になるかもしれない。このアンケートの結果についても、試合のため土曜日と日曜日どちらか活動するのかと聞いたら結果は違ったかもしれない。

(委員)

基本的に土日は部活をせず、大会等をやるために参加するというような形になっていくのか。

(委員長)

そういう形になるか分からないが、部活動としてその活動を維持していくことが適切かどうかは分

からない。

(委員)

子どもたちはそのように望んでいるということか。

(委員長)

部活は楽しいが、他にもいろんなことをしたいという子どもたちもいれば、毎日部活ばかりやりた
い子どもたちもあり、多様性があることは一定受け止めなければいけない。

(事務局)

(補足として) 地域クラブに参加したいが 37%、分らないが 41%。ただ、実際部活動の地域移
行について子どもたちも分らないので、答えられないということもあるのかなと。

参加したくないというのは、土日はやりたくないと思っている子どもたちの意思表示かなと思う。
地域移行のイメージが見えないかたは、参加・不参加の数が入っていないと思う。

(委員)

スポーツ少年団をしているのですが、対応できるのなら土日。平日は厳しいという話をしている。

(委員)

回答している保護者というのは部活に対してものすごく熱心か、何かすごく不安なのか、それだ
と意識があって回答されたのではないかと。そういった興味のある方で、「中学校の部活動の地域
連携・地域移行の内容を知っていますか」というのが 19%にとどまっている。何らかの形での啓発
というのがもっと必要なかなと思う。その中でも、休日の部活動が地域クラブになった場合に参加
させたい人が 69%ということで、あるのならやらせたいという表れなのかなと思っている。

(委員)

その分らない 41%が気になる。これは子ども側からすると、イメージが全くできない中で回答
していると思う。また、家でそういう話をする中でお金の話も出てくると思う。子どもはそういうと
ころも付度しますし、分らないというのはそう意味で増えていると思っている。

地域連携・地域移行の大きな枠組みを、宇治市の皆さんに知らせた後でアンケートを取ったら、ま
た数字が変わってくるのではないかな。

(委員長)

政策の浸透と納得感を得るための手だても、考える必要がある。

(委員)

小学校保護者の結果だが、部活動が地域移行した場合に参加させたいかという質問に、子どもが希
望したら、行かせたい、行かせたくないか、お金によるのか、金額によるのかというところを見た
い。その中でお金がかかるなら行かせたくない保護者がどれぐらいいるのとか確認したい。

(委員長)

宇治市でもう 1 回調査をすることがあれば、反映させていきたいと思う。

(委員)

このアンケートをとるときに、地域移行の大義、こういうことで地域移行する必要があるというの
が理解されていたのか疑問がある。地域クラブが魅力的であれば結果は変わる可能性が高いと思うの
で、イメージしている地域クラブを示す必要があったのではないかな。

(委員長)

地域移行のイメージがない中、想像で回答しているのではないかという懸念はおっしゃる通りだと思う。宇治市がこういうデータに基づいて部活の地域展開をどうやっていくのかというところが、次の在り方に書かれるべきなのかなと思っている。

(委員)

先生方にも視点を当てていただきたい。先生方の負担は拭えないというところに注目している。この会は部活動を地域に移行する会で、働き方改革もあるし、そういう視点で急務だなというのが一つ。先生には部活動ではなく教科指導の準備時間をとるようにして、楽しい授業や生徒が学校に来て楽しいという授業をしてもらいたいと思っている。そういった意味でも、何とかならないかなというのが教師側の視点の意見。いろんな意見があるけども、地域に移行していくというのは急務かなと思って見ていた。

(委員長)

貴重な意見。先生が人間らしい生活をしてもらおうべきと思うので、この実情を理解するのは必要。今回のアンケートでも全国と同じように60%以上の方が、指導したくないという事実があるというのは一つ踏まえておかねばならない。

(委員)

子どもたちの中には部活動をしたいと思っている子がいる。部活動する場所は廃止してほしくない。地域に移行するなら受入れてもらう側をそろえていかないといけないのかなと思った。

(委員長)

やりたい子どもたちの受皿をしっかりと整えていく必要がある、整えていくべきではないかということかと思う。アンケート結果を踏まえ、受け皿の整備の方向性、在り方の素案の説明を頂きたい。

(事務局)

【仮称】宇治市 今後の学校部活動の在り方について（素案）説明

(委員長)

前回の、学校を拠点にしながら進めていくという皆さんの御意見を踏まえたときに、この考察を全て推進するためにはどんなことを考えなければならないのか、皆さんから御意見頂ければと思う。

(委員)

1 ページ目のイメージ図の中に、将来にわたって文化芸術活動に親しむ機会を、という記載がある。学生時代で終わりではなく、生涯スポーツや生涯文化活動につなげていくという視点で間違いな

いか。

(事務局)

中学校の期間の環境について確保していくという意図でつくった。少し誤解を与える表現については、もう一度精査していきたい。

(委員)

中学校の部活動としてとらえてしまうと3年間で終わりとなる。地域移行をしていくのであれば、中学校生活3年間だけに限らず、大人になってもやっていける環境をつくっていくことが大事、むしろそういうところにこだわったほうがいいのかなと思った。

(委員長)

中学校の部活動の地域展開を起点にして、地域の文化とかスポーツとかの新しい仕組みづくりをし

ような感じのほうが、未来志向的になると思う。

(委員)

はじめにのところの大義にあたるような部分、生涯スポーツを目指していくのだというニュアンスをもう少し入れられたらどうかと思う。その中で、今回の部活動の改革については、ここを目指していきますとしてもいいのではないか。何のためにそれをするのかという部分をもう少し濃く書いておく。そして、中学校ではこうなるのだなというふうになるのかなと思う。

(委員長)

そのほうが未来志向であるし、大義の部分のところに宇治市がどこに向かっていくのかがしっかりと書かれているほうがいい。

(委員)

生涯スポーツの視点について国はスポーツ庁を中心に考えていくのであろう。そこをもう少し強調していただきたい。兼業の届出をしたときに、労働時間にカウントされるか、その想定、素案にある「地域」という言葉の重さや範囲について考えをお尋ねしたい。

(事務局)

「地域」について明言するのは難しいが、中学校単位で複数中学校の単位で幾つかに分けて、このような活動ができないか、進めていけないかと考えているところ。

兼職兼業についても、国、府の通知に従って進めていくことになるかと思うが、先生方の勤務状況というところもしっかり見ながら、兼職兼業の許可を出していくものと思っている。

(委員長)

前回の議論から、少し離れている地域もあるが、幾つかの中学校に分かれる単位で拠点としていけば、子どもたちの活動はいけるのかなと。その中で指導者も生徒も移動して活動できる範囲というのが「地域」ではないか。

(委員)

兼職兼業のときに、労働時間を明確にしておかないと、校長先生の裁量権に委ねるのは、厳しいと感じている。

(事務局)

兼職兼業で地域クラブの指導をしたいと本人が思っているかどうかが大事になってくる。一方その熱意に甘えるだけでなく、その先生の勤務時間等をしっかり鑑みた上で判断をしていく必要があると思っている。

(委員)

先生方を見ていると、どうしてもオーバーワークになりがちだと思うのですごく心配している。

(委員長)

今までは先生方の篤志に頼っていたという実情。希望する方に一定の保障をし進めていくということだが、篤志に甘えるようなシステムでは制度疲労しているということになる。

(委員)

将来にわたってとか、生涯スポーツという視点で目指されたほうがいいということをおっしゃったが、そこまで考えると、相当壮大な宇治市のスポーツの根幹に関わるようなことになっていると思う。そういうイメージを持つのはいいと思うが、あくまでもこの中学3年間の部活動をどう地域に展

開していくのかということに、持っていくべきなのかなと思う。

(委員長)

最終的にはそこまで向かいたいというところは示しておいてもいいかと思う。

部活動の地域移行が、ひいては市民一人ひとりの文化・スポーツに親しむことにつながっている。したがって、最終的なビジョンがあり、そこに今回の意向が後いうことであれば、学校も少しわくわくするかなと。

(委員)

そこには賛同したい。団体の高齢化が進む中、若い力と関わるきっかけと考えたい。世代差があり、すぐに加入いただくことは難しいと思うが、壮大な先のことを見通して、力になれることがあれば我々は微力ながら力を出せたらいいなと思っている。

(委員長)

各団体に危機感をお持ちであり、今回の意向を通じて、いろんな競技団体とか文化団体の方々とウィンウィンの関係ができたらと思う。

(委員)

1 ページのイメージの図を保護者が見たとき、まだまだ学校部活動は今までどおりなのかなという印象が一つ。先を見たときに、物事を変えるときはいろいろな意見や反発は受けるもの。他市事例を参考に、保護者にも子どもたちにも将来はこういう変更するというものを示していくべき。

(委員長)

イメージ図のところは、休日の活動の移行からスタートするということがあり、平日はだまだ学校に頼らざるを得ないという状況から、地域の比率が小さいというのはイメージ的にそうなのではないかなと思う。

休日と平日の2段階の改革をしていくのかどうか、できるところは平日もやっていくのかどうか、宇治市のスタンスを考えていかなければならないと思う。

イメージ図だけでなく、文章としても子どもたちにとって持続可能な新しい世界へのメッセージがなかなと思う。地域との連携を図ることによって、持続的にどんな活動が提供されるイメージなのか、何か書けないかなと思った。もう一つは、4 ページの運営団体で、今現在、イメージはあるか。

(事務局)

はっきりとこの団体というところはまだ明確には持てていない。ただ、そういった団体になりうるものが今後出てこないかという、期待を込めた表現になっている。

(委員長)

運営団体の想定についてイメージを持ってもいいのかなという感じがした。そこに地域の方々と連携していて、中学生の活動を拠点校型で展開していたところに、地域の方々が学校に来たりするとか、あるいは、近隣の公共施設のところに子どもたちが行ったりするようなことが展開されたいなと思う。

(委員)

昔は地域が横に連携しコミュニティ形成ができた。今の時代それを戻すのは難しい。まずは中学校の3年間でどうするか、というところから将来を見通すこともいいのかなと思った。

(委員長)

難しいと思うが、そのコミュニティの再生というのも大事だと思う。何回ぐらいでまとめるのか。

(事務局)

今年度を目途に在り方案というものをまとめたいと当初の予定としては考えている。

今回まずは取り組むべき課題は中学生の部活動をどう保障していくのか。その中で地域展開をどう図っていくのか。地域団体の皆さんの御意見等をお伺いしながら、まとめていきたい。

ただ生涯スポーツ・文化も含めた観点ということになってくると、もう少し時間かかる可能性もあるかなというのは現時点で感じている。

(委員長)

将来を見据えた部活動の在り方については、行く行く考えていくとし、在り方案のまとめは、あまり先延ばしにしなくてもいいのかなと思う。

(委員)

今あらゆる団体は持続可能にしないとと言われて苦心している。地域が弱っている中、私たちはまだいいが、次を託された人が仲間がおらず苦しんでいます。誰に次にバトンタッチしたらいいかを考えると分からないような状況だと思う。

(委員長)

一般論として世代継承をどうするのかという点と、もう一つは、コーディネーターの人たちが、結局学校の教員の方のように疲弊しないか、コーディネーターとなる人の役割、立ち位置みたいなことでコントロールができるのかというような感じだったのかなと思う。

(委員)

今回のこの地域移行というのは中学生が新たに入ってきてくれる、話すきっかけにはなる可能性がある。また保護者の方や、離れている世代を確保することも、今後できないか考えていければなと思っている。

(委員長)

バトンを握って離さないというような時代で困ったようなところから、バトンを渡せなくて困っているという状況。

ファーストステップは、将来を見据えた中での部活をまずやるという話にすると筋になってくるのかなと思う。将来を見据えているけれども、まずはこの中学校の部活動をどうやって新しい形として子どもたちに新しい機会を開いていくのかどうか、ということを考えるほうが確かに分かりやすい。今の部活動のことを書きつつも、どこへ向かっていくのかみたいなことは書いてもらってもいいのかなと感じた。頂いた意見を踏まえながら、もう一度検討させていただきたい。

4つ目に移りたいと思う。実証事業の説明をお願いしたい。

(事務局)

令和7年度実践研究事業（案）説明

(委員長)

基本的には、在り方の4ページの具体的な運営イメージとか、そこに向かうようなことで必要なこと等が検証できるようなモデル事業なり、実証事業になるかという観点が重要なのかと思う。お気づきの点があれば御意見頂ければと思う。

(委員)

この地域クラブコーディネーターはどういう方をイメージされているのか。

(事務局)

例えば退職されている先生、また、地域の方で積極的に関わりたいという思いを持たれている方がいいかと思っている。

(委員長)

他府県では退職された校長先生方や、退職された先生が多い。他には総合型地域スポーツクラブとか、各地域に顔が利く方もいる。

(委員)

市の校長会で、拠点校方式を模索しているところで、そこに実践研究とあわせて、部活動指導員を配置していただくとか、例えば、スポーツ文化団体の方々に指導者の方がおられたら、そこに入っていて、一緒に模索していくこともできる。あともう一つ、指導者を探すとなるとハードルが高くなる。コーチングをしないといけないのではなくて、一緒に楽しんでやってもらうということであれば、教えるというよりもハードルが下がるのかなと思う。

(委員長)

どんな拠点校のくくりで行っていくのかどうかということと、そこにちゃんと指導員を何人配置するのかという、具体的イメージを描くということが前半の話だったのかなと思う。

後半の話は重要な視点だったかと思う。指導スキルとか指導技術でも、宇治市がこれだけは守ってほしいということのスタンダードを決めたら、一緒に活動してくださる方々を求めている、というメッセージもあるのかなというふうに思った。

(事務局)

事務局でも、再検討していきたい。

(委員)

本当に部局を横断して、事務局が取り組んでいると思うが、今後そういった流れが一層強くなってくるのかなと、この在り方素案の4ページの文書を見て感じた。

やっぱり市としては非常に大きい方針、今後の子どもの未来を左右する話なので、頑張っていたきたいと率直に感じた。

(委員)

検討されたとは思いますが、地域クラブコーディネーターでスポーツ推進員の活用というのはあったと思うので、一応記載をされたほうがいいかと。

(委員長)

おっしゃるとおりだと思います。

(委員)

この実証について、いろんなパターンでされているいろんなデータが出てくればいいなと思う。

(委員)

地域クラブコーディネーターという方がどうなるのかが1番気になるところ。チームで進めたほうがいいのかなと思った。

(委員長)

地域コーディネーターは文化とスポーツでそれぞれ何人ぐらい考えたか。

(事務局)

実際、実践研究をどれだけの数でできるのかというところにも関わってくると思っている。1人と思っていたが、複数体制というところも視野に入れて協議を進めていく。

(委員長)

在り方で示したイメージ図を検証できるように、実証事業も整えていきたいと思う。

3 閉会

閉会挨拶 (事務局)